

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	ますがたとしこ		
梶瀉俊子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	やまもといさお		
山本 功		淑徳大学コミュニティ政策学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	SKTb-120601-0	4 人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 学生は調査の企画、調査票の作成、調査票の配布回収、データ入力、集計分析を行い、以上に基づいてレポートならびに報告書原稿を作成した。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域： 都市における高齢化と地域活動

2. 調査の内容/概要： 千葉県内における調査票調査

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 千葉市中央区白旗台地区の 11,995 世帯を母集団とし、抽出標本数は 1,700 と設定して住宅地図を用いたエリア・アンプリングを実施した。ただし、エリア・アンプリングであるため、物置小屋や事業所等もあったため、実際に抽出されたのは 1409 世帯であった。

4. 主な調査項目： ライフスタイル、地域活動、近隣つき合い、社会的ネットワーク、孤独感、幸福感、居留意識

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法： 地域内の住民を対象とした、郵送法を併用した留置法による調査票調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 調査時期は 2012 年 6 月 29 日～7 月 5 日、調査地は千葉市中央区白旗地区、調査員数は学生を含め 8 名

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：
有効回収数 381 票、有効回収率 27.0%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： 1) 近隣のつき合いの程度とその規定要因の分析、近隣つき合いと社会的ネットワークの関連の分析。2) 孤独感とその規定要因、交流関係と親密度、孤独感の関連の分析。3) 居留意識とその規定要因、地域サービスの評価と居留意識の関連の分析。4) 幸福感の構造分析

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)： 1) 社会的ネットワークの強い人ほど地域活動に参加している傾向にあった。2) 社会的ネットワークの強い人ほど孤独を感じることがない傾向にあった。3) 近隣つき合いのある人ほど居住地域を高く評価し、愛着を抱いていた。4) 健康、家族、友人関係を重視する人ほど幸福感が高かった。

10. 報告書刊行の予定と概要： 2013 年 3 月末日付で調査報告書を刊行。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を([*/*])には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。